

2020年12月12日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
第3回 ALPS セミナー 「キャリア支援から見る今後の教育・学修支援」
参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 89名 アンケート提出数： 48件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のオンラインシンポジウムに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・キャリア教育の変遷、理論、また新潟大学で行われている実践内容を学ぶことができ、自身の卒業論文を進めていく上で勉強になりました。
- ・キャリア教育に含まれる多様な観点
- ・キャリア教育に関する”理論”がどのようなものであるか、キーワードを幾つか学べた。
- ・他大学での取り組みを知ることができて有用だった。
- ・西條先生の新潟大学内で実施している授業内容が良くわかりました。自大学での講演の際の参考にさせていただきます。
- ・MBTIについて御説明があり、興味を持ちました。学生一人一人の持ち味、良さを活かすために今後役立てられないかと思えます。
- ・そもそもキャリアと聞くと就職支援のことのみの理解であったが、キャリア発達という概念を知ることができたことはよかった。また、キャリア教育が大学の教育改革と連動して作られている（あるいはその逆も）ことが、新潟大学における意気込みとして理解できた。
- ・「キャリア＝就職支援、ではない」ということについて、様々な視点から理解できる内容だった。
- ・キャリア教育とは線であり、点である就職支援やインターンシップと異なり、長期的視点での設計が必要なこと。
- ・若手社会人と大学生による共同学習の取り組みは大変新鮮でした。学生の学びの促進に加えて、若年層の早期離職問題の解決の一つの手段にもつながるように思いました。
- ・学生の就職支援は大学全体ですという意識を持つことが重要だと思いました。図書館職員としてどのような支援ができるかを考えていきたいです。
- ・行動に移すことへの支援の重要性
- ・国立大学のキャリア教育や学修成果の可視化はやはり大変だということ（決してうまくいっていない）
- ・中等教育と高等教育の連携、発達段階に合わせたキャリア支援について再認識しました。
- ・新潟大学での取り組みについて、具体的に紹介いただき、参考になりました。
- ・キャリア教育の基本的な理論について学ぶことができました。
- ・キャリア支援、教育は、単なる就職支援でなくて、人生を充実させる人間教育なのではないかと思いました。
- ・新しい発見は多数あったが、大学でのキャリア教育で、就職活動を大きく越えて、生涯学び続ける姿勢や変化に対応できる力の涵養が求められている点が特に印象に残った。
- ・キャリア教育が単なる就職支援ではないこと、自らキャリアデザインするための意識・能力を持たせるためのものであること。その考えに基づいて、新潟大学でどのような事例を行っているかを紹介していただき、興味深く拝聴しました。

- ・西條先生には「キャリア」「キャリア教育」について、丁寧に整理していただき、感謝申し上げます。私自身、国家資格キャリアコンサルタントの勉強をし、直近の試験の結果待ちというところでしたので、おさらいにもなり、大変わかりやすかったです。私立大学では、職員の異動でキャリアセンター（就職部）に着任することが多く、学生支援に関する経験は多くても理論や政策的背景を知った上で現場に立つということでは必ずしもないのですが、学生のキャリア支援に関わる側（大学教職員等）が、キャリア理論等を含めて大枠を理解していることが重要であり、そこには国家資格キャリアコンサルタントの一連の学修が一助となるであろうことも改めて実感いたしました。そうした理解があればこそ、お聞かせいただいた事例をはじめ、各所で行われている実践例を参考にして自大学で展開する際にも、小手先でない、芯のあるプログラムになるのだと思いました。本当にありがとうございます。
- ・キャリア支援という言葉は前々から知ってはいましたが、今日の「キャリア支援・キャリア教育の背景」の中で、小中高大それぞれの文脈でどう語られているか、これから入学してくる学生たちの「キャリア支援・キャリア教育」に大学としてどう接続性を持たせていくか、を改めて考える機会になりました。
- ・就職支援はキャリアの一部に過ぎず、その後の人生をどう過ごしていきたいかを自己決定できる能力を育てることがキャリア教育であるというお話をうかがって、そういえば教育ってそういうことだったなと、今更ながら深く思い返しました。また、新潟大学で行われている授業で企業との連携について非常に興味深く聞きました。様々な立場の人が集まって話を聞き合うというのは、とても糧になる経験だと思います。
- ・学生のキャリア形成には社会人基礎力を身に着ける指導だけでなく、組織間の有機的な連携や体制が必要であり、点ではなく線として継続して支援していくことが大切であることがよくわかりました。
- ・基礎知識のない状態で受講しましたが、キャリア教育とは、就職のための特別な教育ではなく、大学教育そのものであるということがよくわかりました。
- ・大学でのキャリア支援を自身が大学生の時はほとんど利用することがなく、大学職員として働く現在も学生支援部署、就職相談部署で学生のキャリア支援に携わることがなかったため、近年の具体的な状況、需要等に対して全く知識がなかった。学生が主体的に動き進路決定をして行けるサポート、自身の振り返りの重要性を認識、変化に対応できる人材を教育するという大きな目標や先進的な事例を知って、もし自分が担当となったら何ができるのか、どういう点に注意していかなければならないのかということを考えさせられた。また自分自身のキャリアデザインを振り返らなければならぬという気づきにつながった。
- ・今後に向けてのまとめは、変化していく時代で常に意識していかなければならないなど、自覚させていただきました。
- ・キャリア教育の構造、初・中等教育と社会人以降の教育との接続・関係性、「キャリア教育」と「キャリアカウンセリング」の二本立ての支援
- ・キャリア教育の基礎からさらっていただいたことで、イチ職員の私でも学生のキャリア教育にかかわれることがよく理解できた。
- ・キャリア支援について狭い意味で理解していたが、内容がよくわかった。
- ・キャリア形成について、従来のキャリア教育とこれからのキャリア教育の意味合いに変化があること。新社会人だけでなく、若手・ベテランの社会人にとっても、キャリア形成の視点・意識は重要であることを再認識できた。後輩指導の面においても役立てたい。
- ・後半から参加させていただきました。大変失礼なことをしてしまい申し訳ございませんでした。授業の内容もきめ細かなものを複数立ち上げていらっしゃるって社会人基礎力の診断もご提供されているとのことで、プログラムを構築し、それを運用していくご担当の方がよい形で教職協働されているからこそなのだと感じました。地域を巻き込むときもかなりのエネルギーもかかるものですが、それを丁寧にプログラム化されて

いる点がとても参考になりました。ありがとうございました。

- ・キャリア教育そのものの理解が深まった
- ・「すべての教育は、キャリア教育であるべき」ということ。事実そうであっても、自分だったら気持ち悪いと感じる。確かにキャリアにつながると思うが、どう生かすかは個人の問題でもあり、教育を受ける立場でそこまで縛られるのはどうかと思う。
- ・キャリア教育について、今までの考え方が変わりました。
- ・学生支援の体制に関し、担当部署のみならず大学全体で行う必要があることを改めて実感しました。
- ・以前、河合塾発行の情報誌にて西條先生に取材させていただく機会があり、今回参加させていただきました。何の因果か現在人事部で新卒採用を担当していることもあり、企業側の視点から拝聴しておりました。教育プログラムとしてのインターンの重要性は理解しつつも、余裕のなさから受け入れ側として名乗りをあげられない歯がゆさを感じます。せめて、学生の成長を意識した選考(面接での声かけなど)を行いたいと改めて考えさせられました。
- ・今後の教育・学習支援に関する具体的な課題①「未知の課題」臆せず、考え抜ける力・行動に移せる力・どんな環境に入っても成長を左右する「良い習慣」(学び癖、変化慣れなど)を提示していただき方向性が明確になった。
- ・教育体制が変わってきているという事、現在自分をふくめた診療科の教育体制が古いことを認識しました。
- ・キャリア教育についての知識などがまだ初心者のレベルだったため、非常に興味深く拝聴いたしました。キャリア支援・教育というものが、人としてどうあるべきか、キャリア=仕事だけではなく、生涯を通して様々な役割を担い、自分らしい生き方の実現の方法の模索、という在り方となっていることを知り、個人的ではありますが、私自身が大学時代に、そのような教育を受けていれば、もっと違う人生もあったのではないかと思います。
- ・大学におけるキャリア支援・キャリア教育を他の大学の教育と切り離して考えるのではなく、むしろ大学教育全体を通じてキャリア教育を行っていくという風に考えることが大事なのだということを改めて考えさせられました。
- ・キャリア教育=就職支援の考えが根強い中で、大学の学びそのものがキャリア支援であり、それを入学時から卒業に向けてどのように構築していくかという話をこれまで聞いたことがなかったので、とても興味深かった。
- ・キャリアと聞くと、就職支援などのことばかりが思い浮かんでいたのですが、セミナーにてより広い概念があることを知る事ができ、とてもためになりました。ありがとうございます。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・質問させていただきましたので、記載いたしません。
- ・西條先生もおっしゃっていましたが、関心のない学生や発達障害の学生の支援についてどうしたらよいのか、今後知りたいと思います。
- ・やや総花的すぎたきらいがあったため、一教職員として何を仕事に活かしたらいいのか、というイメージが持てなかった。
- ・新潟大学では、特産のコメを活かし、北日本製菓など地元企業との連携・インターンシップが農学部で行われていると聞いていますが、学内の部局でのグッドプラクティスが全学のキャリア支援とどう関わるのが望ましいのかという部分にも触れていただくと良かったです。
- ・とても聞きやすい声で、プレゼンテーションの勉強にもなりました。
- ・今年のコロナ禍の影響についてももう少し知りたいと思いました。これまでと基本は変わらないと思いますが、社会の変化がさらに加速したり、格差が拡大しているのかなと思います。大学としてどう支援していくべきか、先生のお考えをお聞きしたいです。
- ・地域連携における中小企業に関係したキャリア支援についても、もう少し詳しく知りたいです。
- ・最後に質疑でお話されていたとおり、やりたい気持ちがない人をどのように引っ張り出すかというのは難しい問題と思いますが、オンライン化でさらにリーチが難しい時代にどうやって学生に向き合っていくかについては今後も考えていかなければと思いました。
- ・学生はインターンシップで学ぶことができると思うが、すべての企業がインターンシップで学生を受け入れてくれるわけではないと思う。インターンシップに協力してくれる企業にはどのような理念を説明をして受け入れてもらっているのか知りたい。
- ・根拠のある提案、という部分で図書館が関与しているというお話について。企業情報・統計情報等の探し方については、私の所属する図書館でも、経済学の専門分野に関する情報収集として講習会を実施しており、それを転用して提供することはイメージしやすいのですが、その他に、図書館がキャリア教育に関与できる部分があるのかどうかについて、もう少し伺ってみたかったです。
- ・企業や職種によっては、大学でのキャリアデザインが完全に社会人でのキャリア支援に生かされないことも多い。(人材不足による人事異動等での個人のキャリア形成のばらつき)企業向けのキャリア支援プログラムのようなものがあれば知りたい。
- ・「キャリア教育＝大学教育そのもの」とありましたが、本当にこのように考えて良いのだろうかという疑問を感じました。むしろ、大学教育とキャリア教育の間で「身につけさせたい能力に共通点が多い」ということではないかと思いました。そして、キャリア教育には、キャリア教育ならではの役割、例えば、大学教育での学びを修めた学生に、学修したことを社会や人生の中で実践する練習の機会等を、さまざまな方法で提供する役割があるのだらうと思います(違っていたらすみません)。この役割を、大学の教養教育や専門教育が担うことは、教員や医師・看護師等の専門職課程でなければ、困難である場合が多いと思います。したがって上述の「 」のように考えてしまうと、キャリア教育の存在意義がかえって見えづらくなり、学生にとって必要性・重要性がわかりづらくなる(＝大学教育だけで十分だと誤解を与えてしまう)のではないかと思いました。また、ある程度区別したほうが、大学教育の中で汎用的能力等の育成に尽力している教員にとって、授業の中でそれらの能力をどこまで育成すればよいのか、どの部分に焦点を当てればよいのかがわかりやすくなり、授業目標の設定や授業設計などもしやすくなる、職能の面からみてより現実的で質の高いものを設定・設計できるようになるのではないかとも思いました(大学教育において「アクティブラーニングを増やす」こと、その理由として「キャリア形成」が言及される場合が多いことについて、今まで冷静に考えた事が無かったので、反省の意味も込めて書いてみた次第です)。
- ・コロナの影響によるキャリア支援の変化(就職活動支援)
- ・社会人基礎力の評価についてはどちらかの企業様との連携でしょうか。もしくは大学独自で策定されているものでしょうか。細かいことですが疑問に残った点でございました。本当に素晴らしい展開をされていると感服いたしました。
- ・小・中・高校でのキャリア教育がどれくらい学生に根付いており、大学でのキャリア教育はその延長線上に

実施できるのか？

- ・具体的な行動について
- ・疑問点ではないが、社会に出るまでに身に付けるべき能力と、学生に大学が与える（あるいは学生が自ら吸収する）学問とは乖離があると思っている。この橋渡しをどのように行っていくべきか、特に資格取得が目的にあるような必修科目の多い学部等において、どのようにキャリア教育を正課に盛り込んでいくかは今後の課題と感じた。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・端的に言えば、法人目線、学生目線の両方を備え、活用できる能力を有すること。
- ・学生目線に寄りすぎてもダメ、法人目線のみでもダメ。
- ・本学は有資格者をどんどん関係ない部署に異動させてしまうため、特に職員の自己啓発意識が乏しいため、GoodPracticeはありません。”
- ・企業と連携したインターンシップは、地方大学の方が取り組みやすいのではないかと感じている。地元企業の期待も大きいので。大都市圏の特に私立大学は、企業と組んでの長期的な取り組みが難しいような気がするが、その辺りの方法論があれば勉強したい。
- ・キャリア教育に関する考え方は講師と一致しており、大変共感を持って受け止めました。個人的には初年次教育について現在興味に向いてきております。
- ・私立大学では主たる収入源は学生生徒納付金であることを考え、教職員は教育・学修支援のための知識・能力を向上させ、学生・生徒に還元すべきだと思っています。
- ・私自身、国家資格キャリアコンサルタントの資格を取得しておりますが、まったく関わることもなく、キャリア部門の重要性が上層部に認識されず、生かされない。キャリアコンサルタントの重要性や地位向上などに向けて、配置することの義務付け（努力義務）、補助金支給、認証評価での評価項目に追加など、大学に向けて何らかの動きが欲しいところです。
- ・先進的な大学の事例を多く知りたいです。
- ・教員や職員、学部やセンターなど、あらゆる垣根をとって大学全体として、教育と学修支援をしていくことが重要だと考えます。
- ・コロナ下でほぼすべてがオンライン化したことで、組織側からの発信が主になってしまい、学生からのフィードバックや双方向のやりとりが少し難しくなっていることが気になっています。インプットとアウトプット両方があっての学修かと思うので、図書館としてもそこをサポートできる仕組みが必要と思います。
- ・オンラインで知識を学ぶことができると思うが、コミュニケーション力を高めることやアウトプットすることが難しいと思うので、やはり対面授業やグループ学習は大切であると思う。コロナ禍でできる工夫が必要と思う。
- ・情報リテラシー教育ワーキンググループ（教員と図書館職員とで構成）において、教員と連携した講習会企画の立上げ、評価指標作り、持続可能な実施体制の検討等の活動方針を立てて活動を行っています。
- ・教育学修支援のために必要な資質、能力としては、常に今を疑って、新しい情報を得てアップデートする能力、それを情報共有し、人を巻き込むことができる能力が必要ではないかと考える。自身が大学生だった時よりも、経済の状況や公開情報量も異なり、学生や保護者が情報を集めて、ブランド、国内外に関わらず様々な選択ができる世の中となってきた。
- ・対面、非対面を併用して指導していくと負担増になっていく懸念。
- ・資質・能力：カウンセリングの知識（傾聴、質問ほか）

- ・キャリア支援において社会人を交えた学びにラーニングコモンズが活用されている新潟大学の事例が参考になった。前任の教育系大学でも、現職学校教員を交えた学生の学びや現職学校教員のリカレント教育が課題であり、ラーニングコモンズでの取り組みを開始してラーニングコモンズの拡張を検討していたが、まさにキャリア支援としての教育・学修支援に当たるもので、本日のセミナーが勉強になった。
- ・様々な学びをいかに学生の就職活動成果に繋げるかがひとつの課題と考えています。就職情報誌の資本力の上に成り立っているWeb就活の構造上の問題（知っている企業への集中、優良企業・成長企業との学生の出会い不足など）をいかに認識させることも重要な課題と考える。
- ・大学での特に医療を行いながらの、教育体制について、各診療科にゆだねられているところが多く、それを監査する仕組みがほとんどないのが問題だと考えます。
- ・学生も個人差があり、自分で主体的に動ける学生やそうでない学生もいるわけで、そうでない学生の積極的な行動や主体性をどうやって引き出すかが難しいと思います。
- ・学生が在学中に何を学び、身に付け、それを卒業時にどのようにアウトプットして見せるのが効果的か、という一連の流れについて、教職員全体の理解が進んでいないように感じている。就職課にいたときはとにかく就職のことを考えていて、かえって大学内の履修についてはほとんど知らなかった（権限がなく見られない資料もあった）が、いざ学部事務に異動すると、今度は出ていく先のことはほとんど見えなくなってしまった。各部署が何をしているかをぼんやりわかっているけど、それらが学生の学びにどうかかわっているのかを体系的に知れる機会がなければ、教職員の理解は向上しないように感じる。

4. 本日のオンラインセミナーを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・ウェビナーだと、直接の意見等を伺えないこと、参加者の様子が見られないこと（講演者目線）等がネックだと思います。また、ただ聞いているだけの授業は、特に既知の無いようであった場合、非常に退屈でした…。折角モチベーションの高い人（≡義務ではない人達）が参加しているため、可能な限りアクティブでやるべきと思います。

※難しいのは承知のうえですので、あくまでそう感じている参加者がいる程度で捉えてくださいませ

- ・zoomの仕様で仕方がないとはいえ、リアクションが出しづらかったのは、申し訳無い気がしてしまう。「話を理解して、リアクションを返さねば」という感覚は、受講側の主体性に繋がる一要素でもあると思うので、検討されたい。1スパンが明らかに長い。講師も、リアクションが見えない中でこの時間は相当に心理的負担だと思う。
- ・オンラインでも対面でもそれほどの違いはなく、オンラインの方がリラックスして聞けると思います。
- ・大変スムーズに受講者できました。ありがとうございました。
- ・質問の受け答えなどがないならビデオ講座と変わらないと感じました。もっと先生独自の知見や考え方のやりとりが欲しかったです。
- ・質疑応答は、最後ではなくて途中でよかったと思います。先生も水分補給などの息抜きが出来ますし、視聴者も変化があって、効果的かと思います。
- ・特にありません。遠方からも参加できてありがたいです。
- ・2時間通しのオンラインセミナーは目と耳の負担が大きく長く感じた。休憩を挟んでいただければと思います。
- ・通信状況もよく講師のお話しもクリアに聞こえ、大変良かったです。
- ・早口で情報量が多く、理解のスピードが追い付かないことがありました。思考を整理する時間を適宜設けてもらえると助かります。

5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・大変有意義でした
- ・小学校の頃から漠然と自分の周囲を取り巻いていた「キャリア教育」という考え方がどういうものであるか、そのあらましを学ぶことができたのでよかった。
- ・大変わかりやすい説明で、理解しやすかったです。個人的には新潟大学OBであったため、実際に受けてきたキャリア形成科目・キャリアセンターからの支援について深く知ることができ、興味深かったです。
- ・以前、学生支援のセミナーに参加させていただいたことがあります。今回は、部署も変わり、キャリア支援に関する内容とのことで図書館のスタッフから紹介されて参加させていただきました。
- ・業務の関係で新潟大学西條先生のお話が始まったあたりからの視聴となりましたが、今後のキャリア支援に関するいくつかのヒントがあり、大変有意義でした。ありがとうございました。”
- ・後半に取り上げられた事例をもう少し丁寧に取り上げた会としたほうが、個人的には実りが多かったように思う。前半の内容も確かに未知の内容であったが、「そうなんだ」以上の感想が持てない。(答申や概念とはそういうもの、と言われてしまえば仕方がないが…)
- ・講師の先生方、運営してくださった職員の皆さま、このような機会を作ってください、誠にありがとうございました。
- ・ピアサポートにすら参加してこないような学生(人とかかわりの大切さを理解するものの、行動に移せない学生さん例えば発達障害の側面を持っている等)への具体的な支援は非常に時間がかかると思います。そういった体制がどこの大学でも整っているのでしょうか。また、どのような体制が良いものなのか。
- ・キャリア理論が多すぎ、実践例や課題にむけた取り組みなどをもっと聞きたかったです。
- ・とてもわかりやすく、高等教育だけではなく、初等教育・中等教育についても詳しく説明をしていただき、涙が出るほど感動しました。
- ・このセミナーは学内でも話題になっていました。ALPSを知らない、他部署の職員2人から、別々にこのイベントに参加してみてもどうか、と紹介されたときは驚きました。
- ・シンプルな構成と丁寧な説明で理解しやすく、これからキャリア支援・キャリア教育を学び、実践していくうえで大変有意義な時間でした。ありがとうございました。
- ・これまでかかわりのなかったキャリア教育について俯瞰でき、さらに新しい視点が得られた。キャリア教育=就活支援でなく、人生をよりよく生きる支援なのだと思った。貴重なご講演ありがとうございました。
- ・本日紹介のあったキャリア教育の科目は、たいへん有用なものに感じましたが、全学生に、ということ考えると難しいですね(やはり最初の一步は学生の能動性によるため)。ただ、受講していない学生の中には、授業外で自分で活動していたりして、そもそも授業としては必要ない学生もいるかもしれません。そう考えると、必ずしも数の拡大を重視するのではなく、必要な学生に必要な支援を届けることが肝心なのだろうなと思いました。その点でも、“組織的なマスの支援だけでなく、学生と一緒に考える個別支援も同時に重要である”ということは心に残りました。
- ・会場まで遠いため、対面でしたら参加できないところ、非常に有益なセミナーを受講することができてありがたかったです。また、土曜日ということで、直接業務に関係しないが関連する分野で興味のあることについて、休暇を取らずに受講できたのも大変ありがたかったです(本来、こういったこともワークライフインテグレーションということで職場が認めるべきなのでしょうが、そうなっていないことは残念と思います)。開催側は土曜日開催はご負担かと思いますが、ぜひ今後もお願いできればと思います。有意義な

